Christian
Relief
Assistance
Support
Hope
CRASH

クラッシュジャパン CRASH 便り

2026 年冬号　Vol.7

CRASH：Christian（クリスチャン）, Relief（救援）, Assistance（協力）, Support（支援）、Hope（希望）

クラッシュジャパンは、キリスト教の被災者支援団体（一般社団法人）です。平時から教会や教会ネットワーク、諸団体と協力して被災地で求められる活動が迅速にできるよう準備をし、災害発生時には教会や教会ネットワーク、諸団体と協力してボランティアを派遣しています。

こんな役割を果たしたい　ホペイロとカタリスト

永井　敏夫（クラッシュジャパン代表理事）

＊起点：一般社団法人として歩んでいるクラッシュジャパンの起点は、2011 年の東日本大震災にある。その数年前からジョナサン・ウィルソン宣教師がパイオニアとしてバックパックを背負い、さまざまな地域に出かけていた。ジョナサン師の牽引のもと、東日本大震災では国内外の数多くのキリスト者たちの参加協力があり、私たちは被災者支援活動の先達として活動してきた。以降、数々の災害の地に立ち、さまざまな形態で関わってきた。（ボランセンターの運営、現地牧師方への傾聴、ボランティアサポートなど）

能登ヘルプのボランティアとして被災地の塀の除去作業を行う

＊再スタート：クラッシュジャパンとして動き始めてから私たちは、人間で言えば選挙権を持つ年齢になった。スタート時から現在に至るまで活動しているスタッフはほんのひと握り。今は第二走者たちが歩んでいるが、第三走者たちにバトンを渡す時期が近づいている。現在の様相を見ると、「仕切り直し」という語が浮かんでくる。これには、単にリセットするだけでなく、「もう一度やり直そう、機会をあらためて再スタートをしよう。」というニュアンスもある。継続した歩みをしつつも、再スタートをしていくためには今も、そしてこれからも走者が必要だ。

＊キリストの愛を携えて：このレターのトップのバナーにある如く CRASH の C は Cristian（キリスト者）、H は Hope（希望）から採られている。この二つには全く変わりがなく、どんな時にもキリストの愛を携えて遣わされていく者たちの集合体でありたい。R は Rilief（救援）、A は Assistance（援助）、そして S は Support（支援）から採られている。これら三つは、場面により内容は異なってくるが、被災された方々、またその方々を助ける方々のそばにいつもいる者たちでありたい。

＊私たちの役割：ここ数年は、心のケア（災害時ストレスマネジメント）と防災ネットワーク（首都圏中心）の二つの領域で、諸教会、団体、ネットワークなどと繋がりながら歩んできている。お声がけいただければ、どこにでも出かけて行きセミナーやワークショップなどを開催するお手伝いをしたい。今、クラッシュジャパンの特徴的な役割を表現するなら、「ホペイロ」（注 1）と「カタリスト」（注 2）と言える。このふたつの語の意味する役割を少しでも果たしていける被災者支援団体でありたいと願っている。

注 1：「ホペイロ」とは、ポルトガル語で「用具係」を意味する。選手のスパイクを管理し、メンテナンスや調整を行うことが役割。チームや選手をサポートするマネージャー職のひとつ。**注 2：**「カタリスト」とは、英語で「触媒」を意味する。特定の化学反応の反応速度を速める物質で、自らは反応の前後で変化しないものをいう。必要なエネルギーを小さくし、より少ないエネルギーで反応を進められるようにする「お手伝い役」。ビジネスや人材育成では変化を促す要因や刺激を与える人という意味でも用いられる。

一般社団法人 クラッシュジャパン
e-mail : contact@crashjapan.com
CRASH 事務局：東京都町田市忠生 1-8-8

被災地での心のケア

全人的なケアを念頭に

東日本大震災の発生と共に、ジョナサン・ウイルソン氏の呼びかけにより、クラッシュジャパン（CRASH JAPAN）は被災地支援を開始しました。

ラブイーストと共同で行った仮設住宅での苔玉作り

その当初から、被災地へ派遣するボランティアのための事前のトレーニングを行っていました。実際の作業での注意点ばかりでなく、赴くボランティアとしての心構え、被災地で遭遇する現場から受けるさまざまなストレスに対する注意点などです。そして、ボランティアセンターでは、ボランティアに出かける前のブリーフィング、帰った後のディブリーフィングを行い、支援者のケアをしながら、支援活動を行っていました。

これらの一連のプロセスは、CISM(Critical incident stress management) と呼ばれる心のケアを土台とした災害対策支援活動の体系的なシステムによります。この土台に立ち、クラッシュジャパンは、東日本大震災以来、ボランティアワーカーたち、そして被災された方々を支援をしてきたのです。

1995 年に発生した阪神淡路大震災の際に、精神科医として被災者のケアのために尽力された故安克昌氏が、当時の状況を書き留めていた手記「心の傷を癒やすということ―大災害と心のケア」の中にこのような文があります。「私たちの経験しているのは、大規模な都市機能の崩壊に巻き込まれた＜心の傷つき＞なのである。その意味で＜心のケア＞の問題は、たんに精神科医や精神保健の専門機関にのみ任された役割ではない。‥‥心のケアは被災者全体に必要なのであり、そのためには被災者と接する業務を行っているあらゆる機関が、心のケアに自覚的であるべきだろう。」。（同著P 69 より）

彼の言葉から受け取るのは、心のケアと呼ばれているケアは、社会に対するケアであり、それは、たんに人間のある部分、ある側面に対するケアあるいはケアの方法のテクニックだけではなく、全人的なケアであるということです。

このことは被災地での支援活動を実践するための組織の編成、人材育成、リーダー養成、チャプレンシートレーニングなどの働きを含みながら、考えて行く必要があります。これらのことを念頭に置きながら、クラッシュジャパンの心のケアセクションとして、現在以下のような取り組みをしています。

1．セミナーの開催

この分野で長年蓄積された経験と知識に基づく郭ヘレン（インストラクター）を中心に下記のセミナーを実施しています。

・防災セミナー
・傾聴セミナー
・ボランティア派遣のためのトレーニングセミナー
・災害また惨事ストレスマネージメントセミナー
・チャプレンシートレーニングセミナー　→（今後の展開となります）

最近では、能登ヘルプからのリクエストで「傾聴・ボランティアの心構え」を昨年の 9 月と 11 月に、オンラインと対面で 4 回行いました。また、日本同盟基督教団・災害対策部の要請で、「わたしたちの防災セミナー・コネクトー if（もしも）をその時へー」という災害対応セミナーを昨年 10 月から本年 2 月までの間に 4 回のオンラインセミナーを行いました。心のケアの視点から、人間の身体・感情・霊の全人的な知識

を踏まえ、気づきが与えられるようなセミナーで、教会や牧会にも大変有用なセミナーです。

2．Peer support volunteer Japan との協力

同僚（Peer）から同僚 (Peer) に対し、ストレスの軽減と回復といった心の支援（ピア・サポート）を主目的にして、CISM の学びができる NPO 法人 PSV JAPAN との連携・協力をしています。災害時の心のケアの多岐にわたる（心のケア、傾聴、カウンセリング等）の知識を体系的に学ぶことができます。この学びには、グループ対応と個人対応の二つがあり、どちらも具体的・実際的な学びができるようになっています。これらのセミナーは、年間通して、随時開催されます。

情報は、こちら https://psv-japan.org/wordpress_5/

3．全キ災の心のケアセクションとの連携

2025 年 4 月にキリスト全国災害ネットに、心のケアセクションが立ち上がり始動しました。加盟団体のそれぞれのリソースや情報を共有しながら、互いの働きを尊重しつつ、協力していく方向で進んでいます。

クラッシュジャパンの心のケアセクションの希望は、**人間に対する全人的な知識を学びつつ**、体、感情、霊に対する災害・惨事へのストレスマネージメントをより多くのみなさんと分かち合うこと。支援者、被支援者の両者が、ケアされつつ、災害や惨事を共に乗り越えて行くシステムが各地域にできていくことです。

能登半島地震被災者支援

能登ヘルプに協力

ひとりひとりに向き合って

能登半島で大きな地震が発生してから 2 年余りが経過している。石川県放送伝道協力会に繋がる諸教会のネットワークが母体になり、能登ヘルプが誕生した。私はその発足式に立ち会ったが、見えないことが多い中、とにかくスタートして被災された方々にキリストの愛を携えながら関わっていこうという一致の心がその場にあった。

それ以来私は能登ヘルプ世話人会にオンラインで参加したり、また実際に石川県にて世話人の方たちと交わり、思いをうかがい祈る機会が与えられてきた。また教会から依頼される礼拝メッセージの機会を大切に受け止め、地域の方々の祝福と救いを祈っている。

クラッシュジャパンとしては、発災以降、心のケアチームや、ボランティアチームの派遣を試みて来ている。2025 年の秋には、能登ヘルプの主催で心のケアセミナーをオンラインと現地で開催し、心のケアセクションのスタッフたちが奉仕をした。（レターの 2 面に記載）

また、8 月と 10 月にはチームを編成し（車 2 台ずつ）、能登ヘルプを通して、仮設住宅でのカフェで音楽コンサートやネイリングをしたり、地域の子どもたちのサマーフェスティバルのお手伝いをする機会があった。ボランティアチームの編成に際しては、日本ホーリネス教団の牧師方を含め複数名の参加があり、共に労する機会となった。

仮設住宅でのカフェコンサート

2026 年度も、特に関東の諸教会やネットワークに呼びかけて、チームを編成し、被災者の方々に届いていく動きを継続できたらと願っている。

→心の中にもしボランティアへの関心、思いがある方はまずはクラッシュジャパンまでコンタクトを。

被災された方々への支援と寄り添いは「いつまで」続くのだろうか？被災者方に届いていきたいと願う地域教会が存在する限り、支援は「いつまでも」続いていくことだろう。この思いを持つ教会の応援団として、「これからも」歩んでいく団体でありたいと私は願っている。（永井敏夫）

クラッシュジャパン

成り立ちから今に至るまで　どんな働き？　どんな団体？　誰がやってるの？

現在、わが国は毎年のようにさまざまな自然災害に襲われ、多くの被害が出ています。被災地では多種多様な支援が求められています。そのような求めに応えることのできる支援活動をキリスト教会が積極的に行えるように、私たちは、災害時、平時を問わず、活動を行っています。

クラッシュジャパンの活動は献金で支えられています。平時において十分な備えができるよう、ぜひみなさまの支援をお願いいたします。

＜主な働き＞

①教会防災ネットワーク作り

主に首都圏の諸教会に働きかけ、教会の防災ネットワークの誕生や、活動をサポートしています。

②被災者支援

災害発生時に、被災地にある教会や諸教会ネットワークが被災地支援活動をスタートする際に、訪問、ミーティング出席、提案などをしながらサポートしています。

③心のケア

災害時のストレスマネジメントプログラムの紹介と啓発活動を行っています。災害時の被災者、被災地で奉仕する支援スタッフ、ボランティアへの心のケアを行います。

＜現在の活動＞

① 2024 年 1 月に発生した能登半島地震災害後に誕生した「能登ヘルプ」に協力しています。できるだけ現地に出かけ、世話人方、支援活動をしている牧師方の思いに耳を傾け、祈る機会を大切にしています。またクラッシュジャパンのスタッフがコアになりボランティアチームを編成し、支援活動に参加しています。いのりんジャパン、ラブイースト、てとめっとなどの団体にも資金面で協力して来ました。

②毎年 6 月に首都圏の教会を対象に広域フォーラムを呼びかけ、各ネットワークがそれぞれの動きを分かち合い、祈り合う機会を持っています。また年に数回、ズームでの分かち合い、発災時のシミュレーションなどのトピックで意思疎通を図っています。

＜沿革＞

2008 年にジョナサン・ウィルソン宣教師により設立された団体です。2011 年に発生した未曽有の東日本大震災の際に、東京に本部を置き、被災地に５つのベースを設置し、世界中から駆けつけた 3,000 名弱のボランティアを受け入れ、支援活動をする教会に派遣しました。ボランティアたちは、地域教会を通しての片付け清掃作業、物資の配布、被災者への傾聴、作物の栽培支援、クラフトやアート、コンサートの開催、モバイルカフェなどに携わりました。それ以後も、日本各地で発生したさまざまな災害発生の際に、地域教会や教会ネットワークと協力してボランティアの派遣、ボランティアセンターの運営サポート、心のケアなどの活動をしてきました。現在は東京都町田市に本部を置き一般社団法人として活動しています。

＊理事　永井敏夫（J. Clay Mission Network）、大澤克哉（東京フリー・メソジスト教団　川越国際キリスト教会牧師）、山田智朗（日本ホーリネス教団　東大和シャローム教会牧師）　三浦寿夫（日本キリスト合同教会　つるかわ台教会牧師）、ジョン・ロビソン（JEMA 副理事長　JEMS 宣教師）、樋野興夫（順天堂大学名誉教授 / 新渡戸稲造記念センター長 / がん哲学外来名誉理事長)

＊監事　沼澤克己（京浜キリスト教会牧師）、山尾研一（町田聖書キリスト教会牧師）

＊協力関係　JEMA（日本福音宣教師団）、JEA（日本福音同盟）、全キ災（キリスト全国災害ネット）などと協力関係にあります。

一般社団法人 クラッシュジャパン　www.crashjapan.com

献金の送金先：郵便振替 00110-3-290907　名義「一般社団法人 クラッシュジャパン」

三井住友銀行神田支店（普）2931366　名義「一般社団法人 クラッシュジャパン」